

## 「平成21年度全国学力・学習状況調査」結果(二次発表)について

### I 調査の実施

#### 1 調査の目的

- ①全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図る。

#### 2 調査日

平成21年4月21日(火)

#### 3 参加状況(公立・国立・私立を含む。)

	参加学校数			参加児童生徒数		
	H 21	H 20	H 19	H 21	H 20	H 19
小学校	413校 (409校)	417校 (413校)	421校 (417校)	18,553人 (18,266人)	18,577人 (18,288人)	17,951人 (17,669人)
中学校	167校 (158校)	167校 (158校)	162校 (153校)	17,217人 (16,436人)	17,106人 (16,356人)	16,557人 (15,832人)
特別支援学校	3校 (3校)	4校 (4校)	3校 (3校)	9人 (9人)	32人 (32人)	16人 (16人)
総計	583校 (570校)	588校 (575校)	586校 (573校)	35,779人 (34,711人)	35,715人 (34,676人)	34,524人 (33,517人)

※H21の数値は、4月21日(火)に実施した学校・児童生徒数

※括弧内の数値は、公立の学校・児童生徒数

### II 分析結果の概要

- 1 正答数の分布状況(正答設問数ごとの児童生徒の割合)
  - (1)市部と郡部の状況
  - (2)旧教育事務所ごとの状況
- 2 学校の分布状況(平均正答率別の学校の割合)
- 3 児童生徒質問紙と学力調査との相関
  - (1)家庭での望ましい生活習慣
  - (2)自尊感情・規範意識
  - (3)学習習慣の確立
  - (4)学校での学習方法
- 4 学校質問紙と学力調査との相関
  - (1)落ち着いた学習環境
  - (2)学習内容の確実な定着
  - (3)家庭学習の工夫と学習方法の指導
  - (4)言語活動の充実
- 5 無解答の状況
- 6 習熟度別指導との相関
  - (1)習熟度別指導実施校と未実施校との比較
  - (2)習熟度別指導実施校における状況

### III 学力向上の取組

- 1 これまでの取組
- 2 今後の取組

## II 分析結果の概要

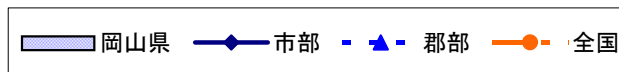
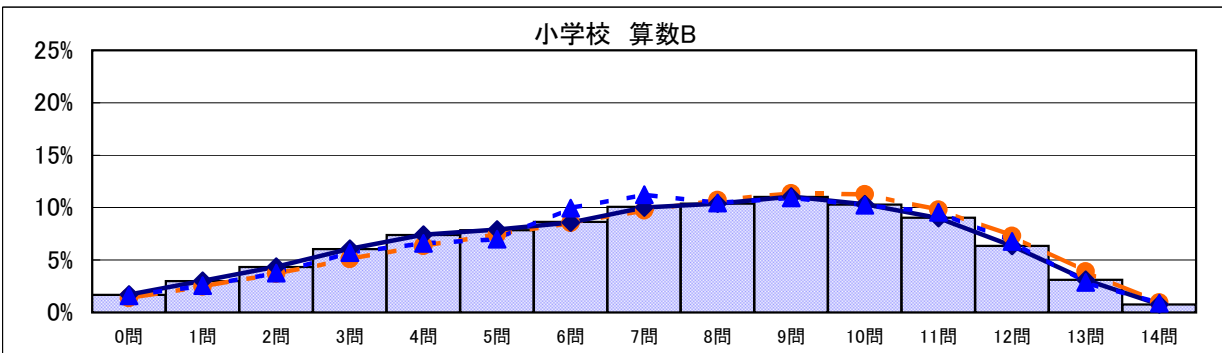
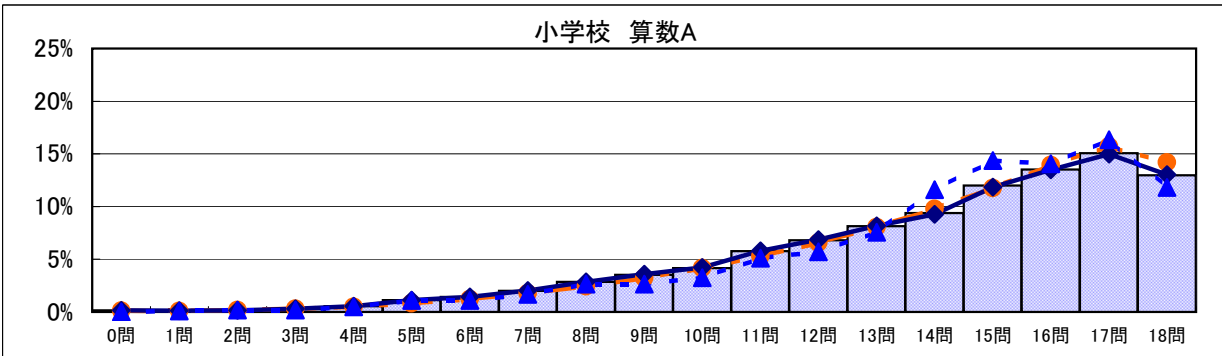
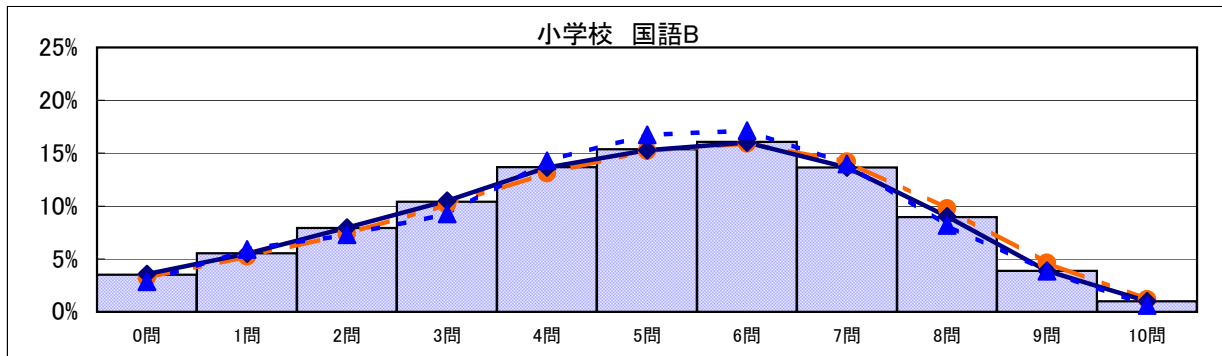
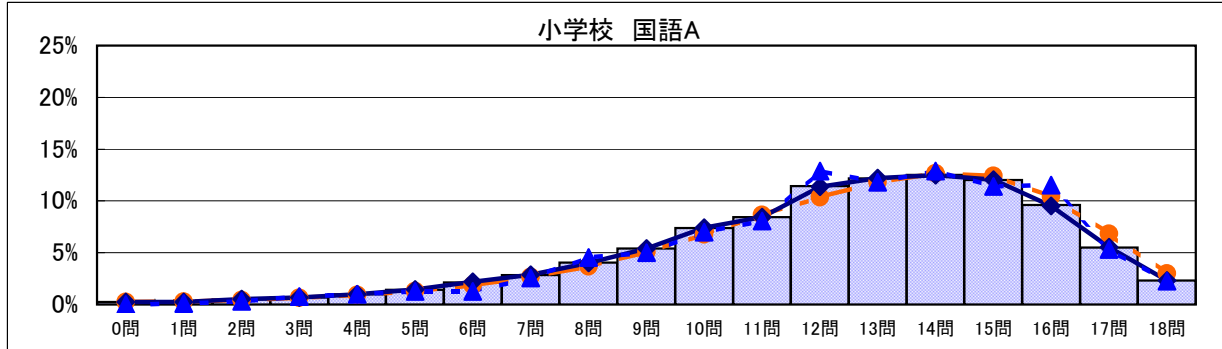
### 1 正答数の分布状況(正答設問数ごとの児童生徒の割合)

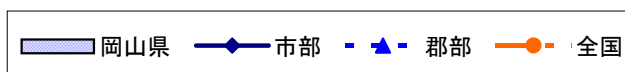
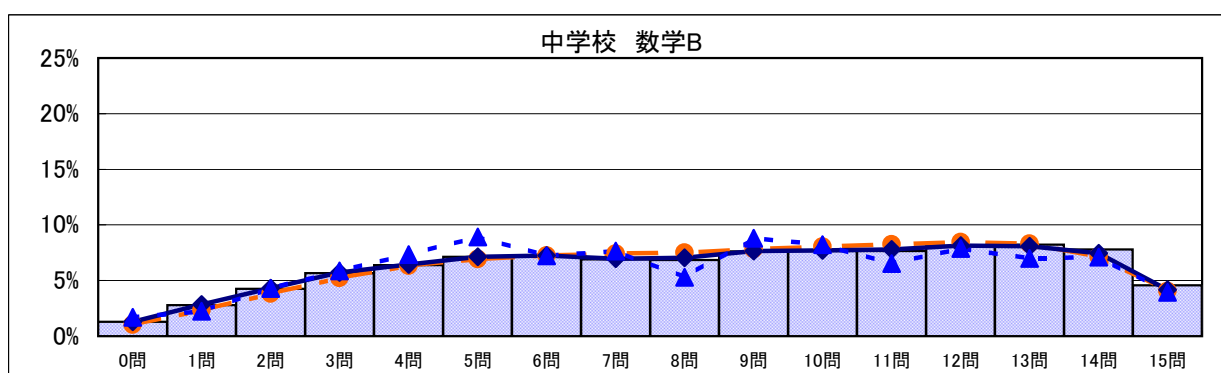
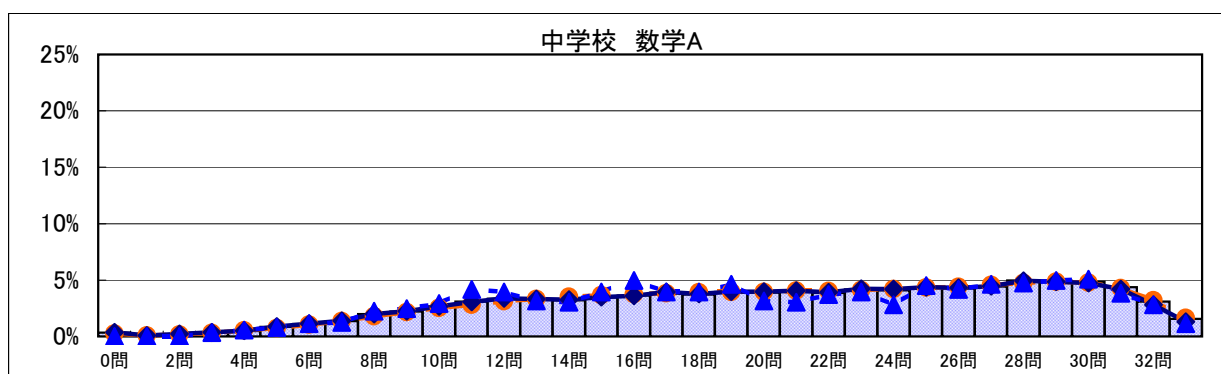
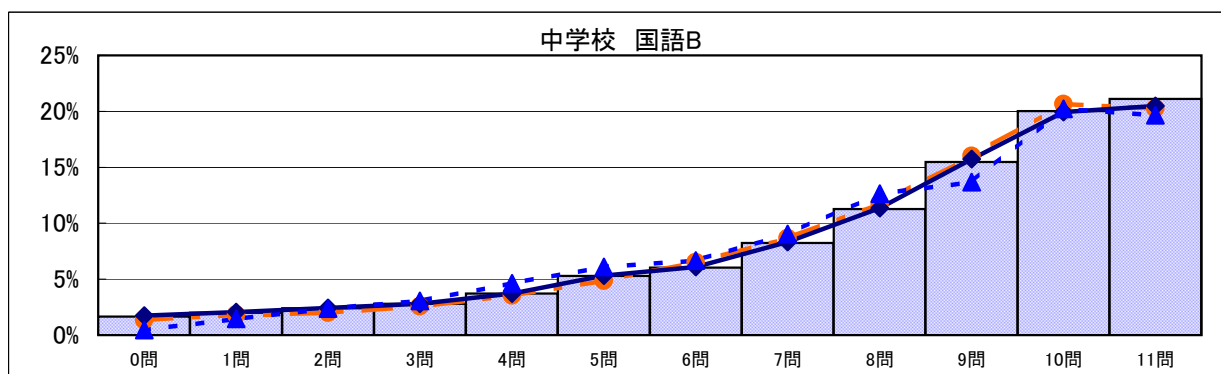
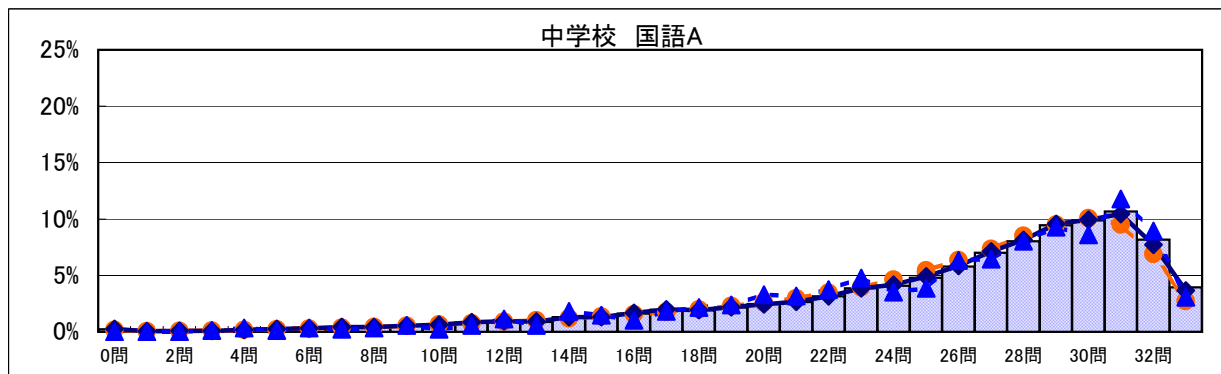
(1) 市部と郡部の状況(市部・郡部に県立学校の数値は含まれない。)

平均正答率	小学校 国語A	国語B	算数A	算数B	中学校 国語A	国語B	数学A	数学B
全国	69.9(65.4)	50.5(50.5)	78.7(72.2)	54.8(51.6)	77.0(73.6)	74.5(60.9)	62.7(63.1)	56.9(49.2)
岡山県	68.6(63.5)	49.3(48.9)	77.6(69.5)	52.4(49.3)	77.7(73.2)	73.8(58.8)	62.4(61.7)	56.4(47.7)
市部	68.6(63.6)	49.2(49.1)	77.5(69.4)	52.3(49.3)	77.4(73.1)	73.5(58.6)	62.0(61.6)	56.0(47.5)
郡部	69.7(63.1)	49.5(46.8)	79.0(69.7)	53.3(48.8)	77.9(72.8)	73.7(58.9)	61.3(59.8)	54.6(46.3)

※( )内はH20の結果

[横軸:正答数、縦軸:児童生徒の割合]





○**全国平均との関係では**、H20はすべての項目において、市部・郡部ともに全国を下回っていたが、H21は、中学校の国語Aにおいて市部・郡部ともに全国を上回り、小学校の算数Aにおいて郡部が全国を上回っている。

○**市部と郡部の平均正答率を比べると**、H21は、中学校の数学以外で、郡部が市部を上回っている。

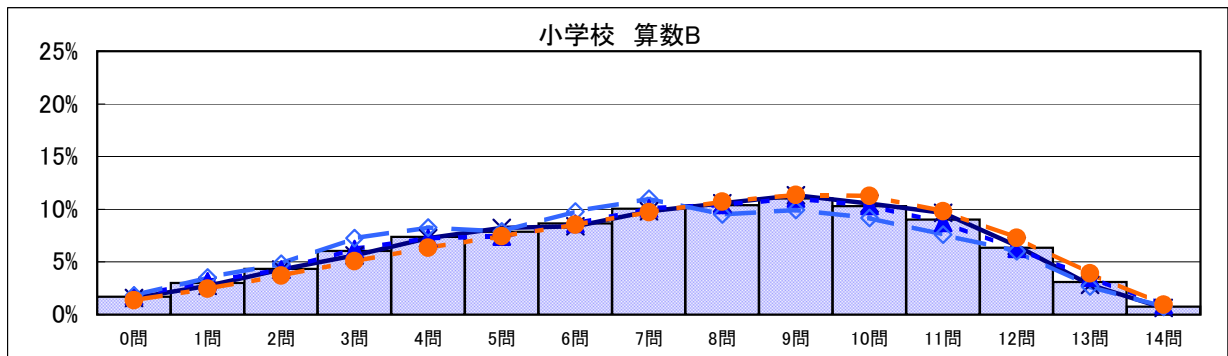
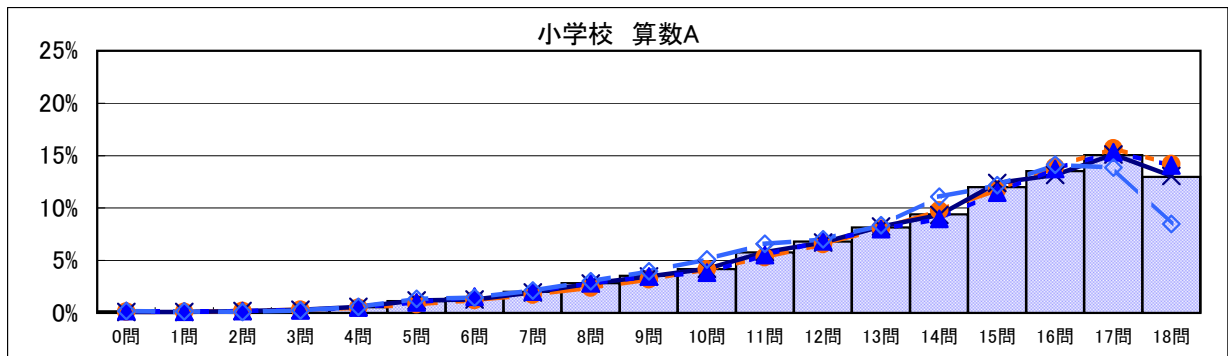
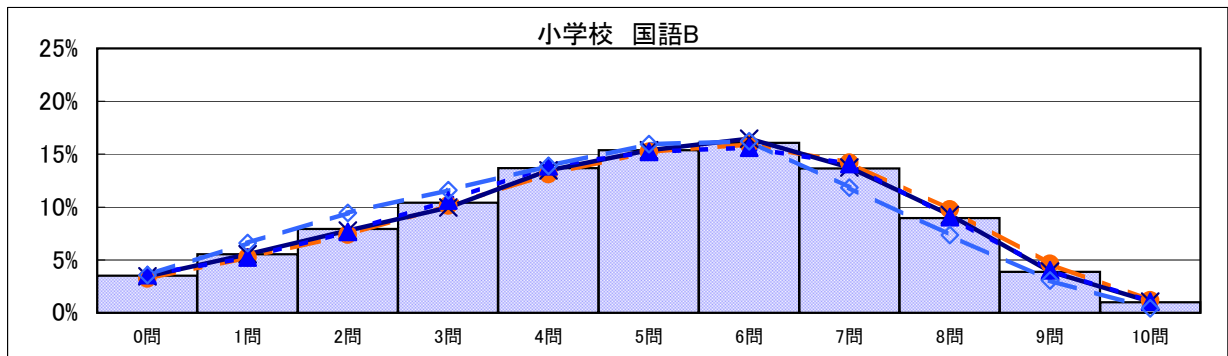
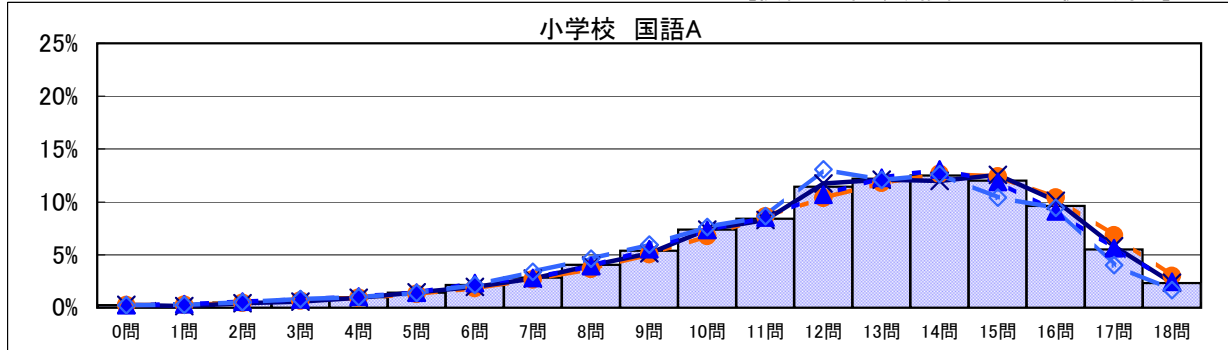
○**市部と郡部の正答数の分布を比べると**、小学校では、市部に上位層・下位層の割合がやや多く、郡部に中位層の割合がやや多い。中学校では、国語において郡部に下位層の割合がやや少なく、数学では市部に上位層の割合がやや多い。

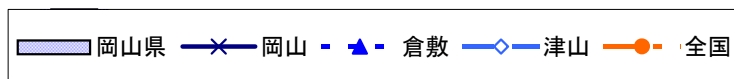
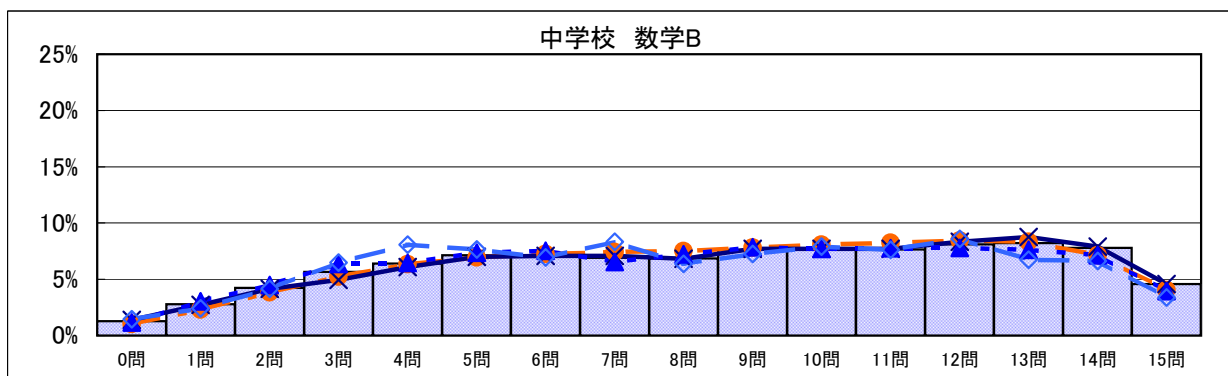
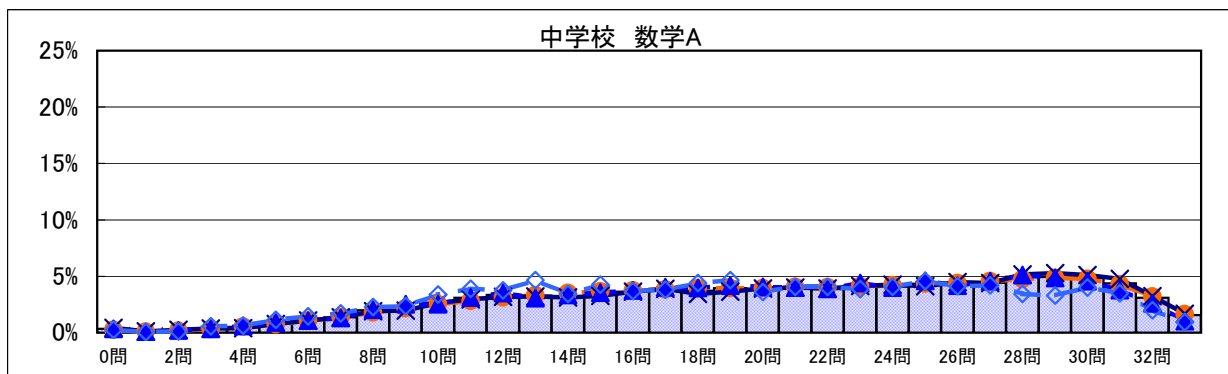
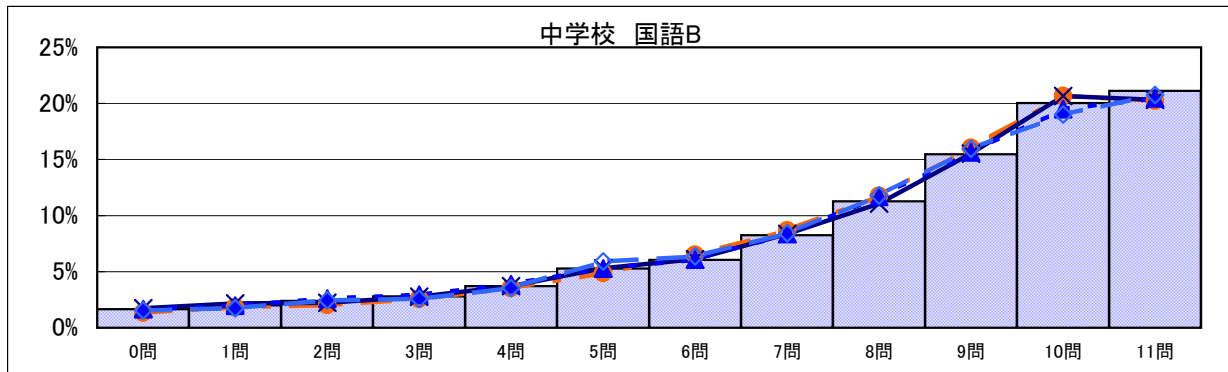
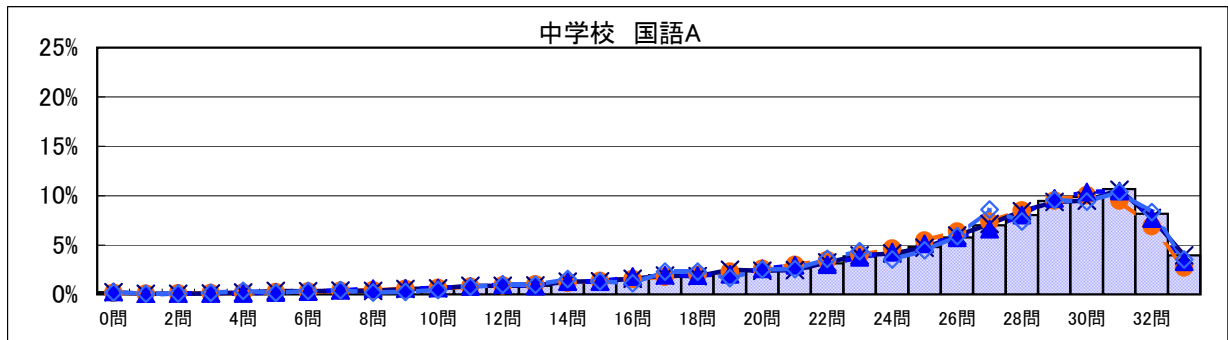
(2) 旧教育事務所ごとの状況(各教育事務所に県立学校の数値は含まれない。)

平均正答率	小学校				中学校			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
全国	69.9(65.4)	50.5(50.5)	78.7(72.2)	54.8(51.6)	77.0(73.6)	74.5(60.9)	62.7(63.1)	56.9(49.2)
岡山県	68.6(63.5)	49.3(48.9)	77.6(69.5)	52.4(49.3)	77.7(73.2)	73.8(58.8)	62.4(61.7)	56.4(47.7)
岡山	69.2(63.6)	49.7(49.3)	77.7(69.3)	52.9(49.6)	77.5(73.4)	73.7(58.8)	63.1(62.9)	57.1(48.6)
倉敷	68.5(63.6)	49.5(49.0)	77.9(69.7)	52.4(49.1)	77.3(72.6)	73.3(58.1)	61.6(60.6)	55.2(46.8)
津山	67.2(62.9)	46.7(47.4)	75.7(69.4)	50.1(48.6)	77.6(73.1)	73.7(59.3)	58.7(59.1)	54.3(45.0)

※( )内はH20の結果

※教育事務所の区分はH20年度末までのもの  
[横軸: 正答数、縦軸: 児童生徒の割合]





○**全国平均との関係では**、H20はすべての項目において、どの教育事務所も全国平均を下回っていたが、H21は中学校の国語Aですべての教育事務所が、数学A・Bで岡山教育事務所が全国平均を上回っている。

○**教育事務所間の平均正答率を比べると**、H21は中学校の国語A・B、数学Bを除いて、H20に比べてやや教育事務所間の差が広がっている。

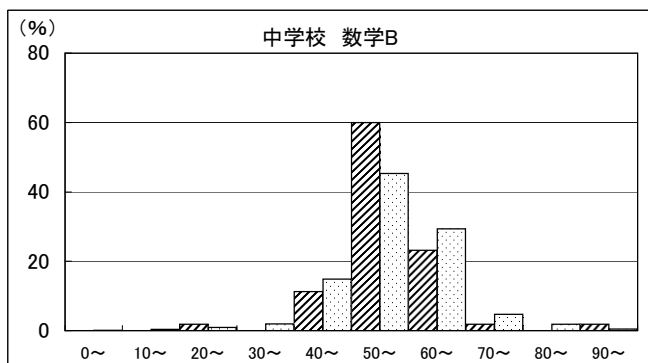
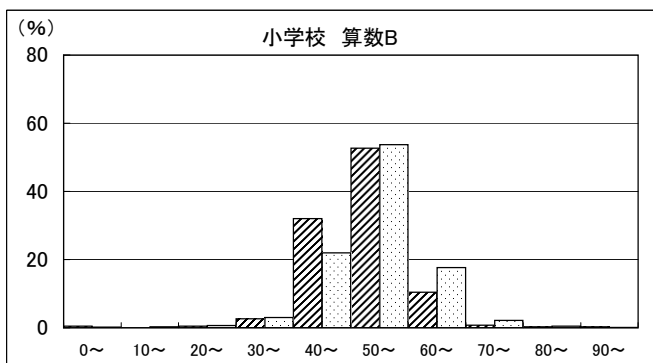
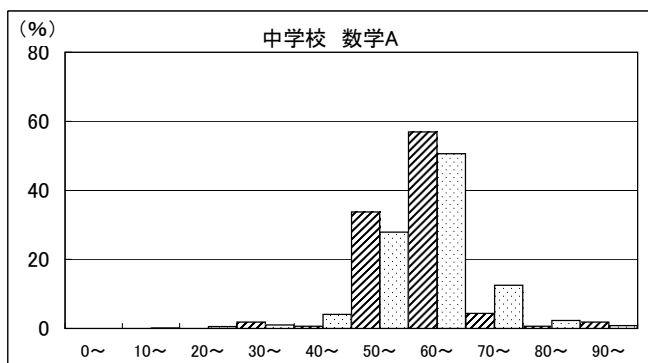
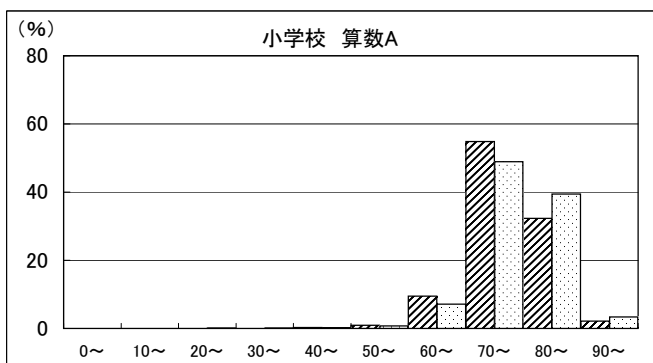
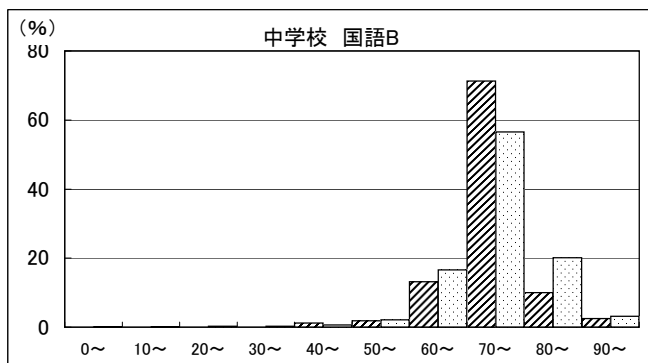
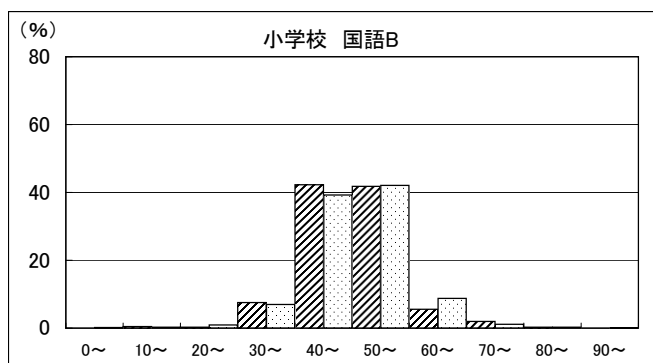
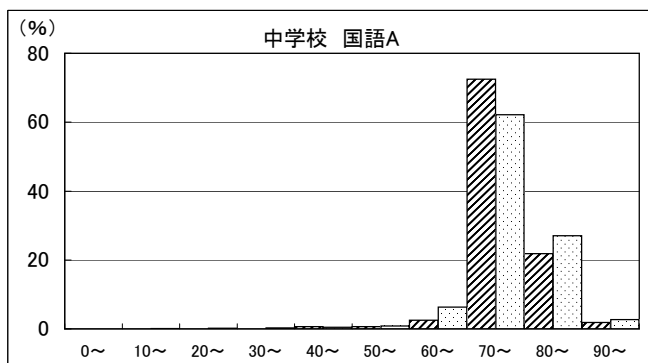
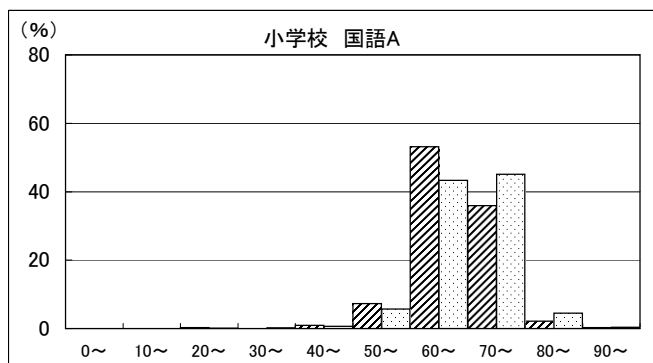
○**教育事務所間の正答数の分布を比べると**、小学校では、国語において岡山教育事務所管内の上位層の割合がやや多く、算数において倉敷教育事務所管内の上位層の割合がやや多い。中学校では、国語において津山教育事務所管内の上位層の割合がやや多く、数学では岡山教育事務所管内の上位層の割合がやや多い。

## 2 学校の分布状況(平均正答率別の学校の割合)

[横軸:学校の平均正答率, 縦軸:学校の割合]

岡山県(公立)

全国



○小学校・中学校ともに、平均正答率の高い学校が全国より少なく、低い学校は全国よりやや多い。

### 3 児童生徒質問紙と学力調査との相関

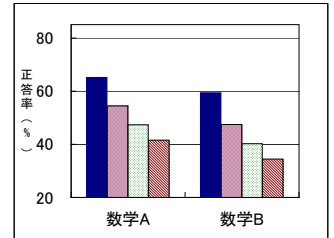
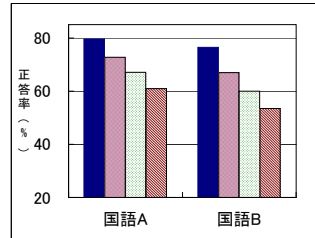
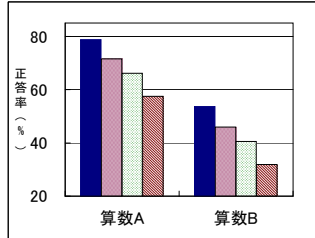
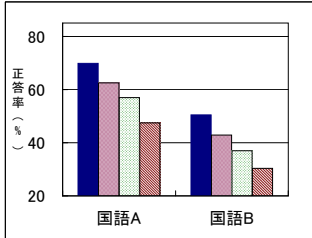
児童生徒質問紙と学力調査との相関を分析をしたところ、家庭では、(1)「家庭での望ましい生活習慣」、(2)「自尊感情・規範意識」、(3)「学習習慣の確立」、学校では、(4)「学校での学習方法」が、子どもたちの学力向上にとって大切であることが明らかになった。

#### (1) 家庭での望ましい生活習慣

【小学校】

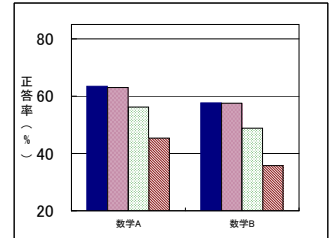
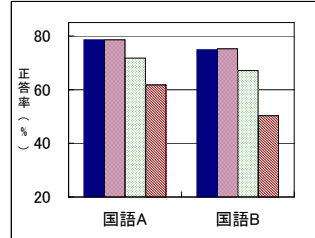
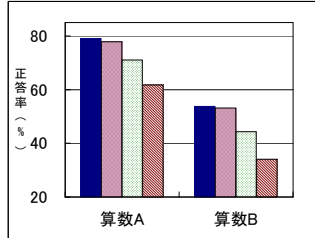
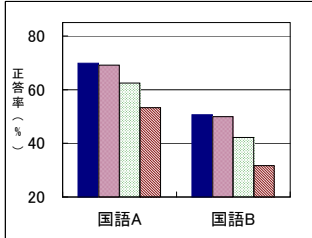
【中学校】

##### ◆朝食を毎日食べていますか



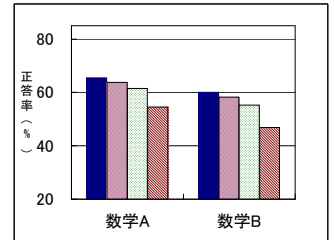
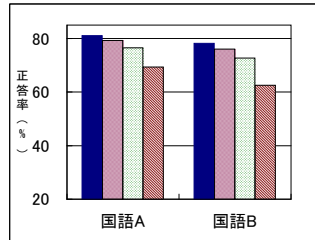
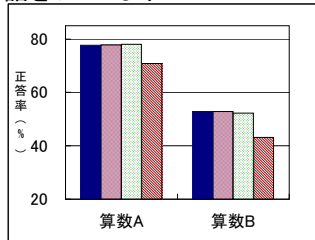
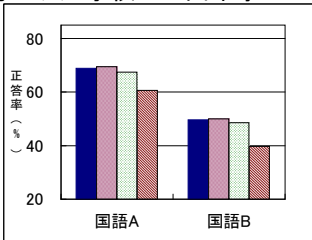
■している ■どちらかといえば、している □あまりしていません □全くしていません

##### ◆毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



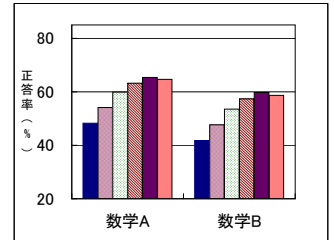
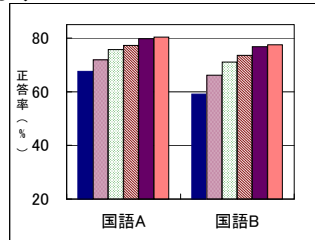
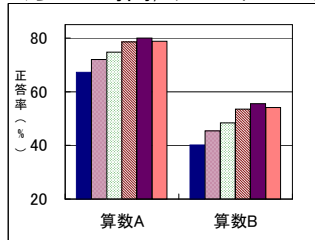
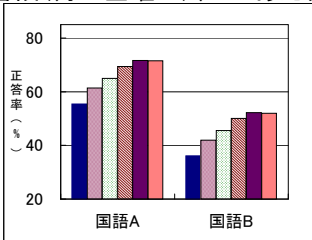
■している ■どちらかといえば、している □あまりしていません □全くしていません

##### ◆家の人と学校での出来事について話をしていますか



■している ■どちらかといえば、している □あまりしていません □全くしていません

##### ◆普段(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

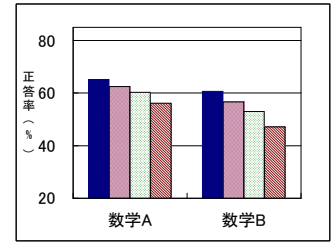
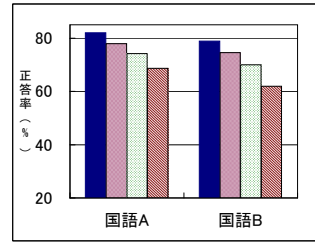
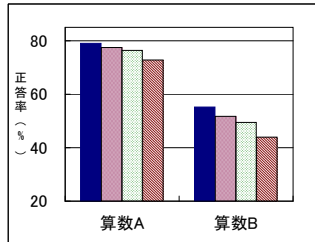
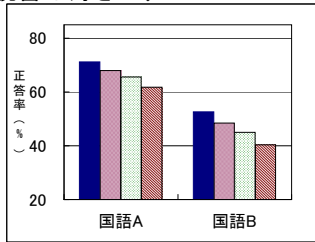


■4時間以上 ■3時間以上、4時間より少ない □2時間以上、3時間より少ない ■1時間以上、2時間より少ない ■1時間より少ない ■全くしない

【小学校】

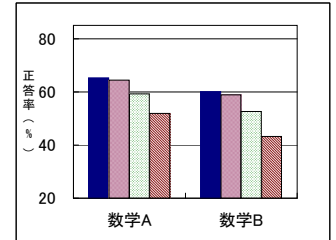
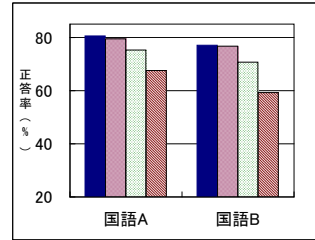
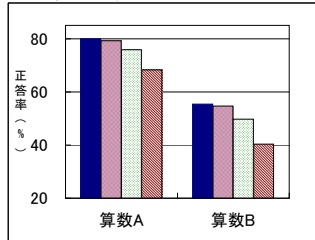
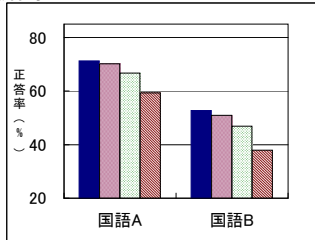
【中学校】

◆読書は好きですか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

◆新聞やテレビのニュースなどに関心がありますか



■当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない ■当てはまらない

○「朝食を毎日食べる」ことや「毎日、同じくらいの時刻に起きる」ことなど、規則正しい生活ができている子どもの方が、正答率が高い傾向が見られる。また、「家の人と学校での出来事について話をしている」子どもの方が正答率が高く、家庭でのコミュニケーションが子どもの豊かな学びを支えていると考えられる。

○「1日あたりのテレビゲームの使用」時間が長いほど正答率が低く、「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」「読書が好き」であるほど正答率が高いことから、帰宅後の時間の使い方について、家庭で話し合っ規則を決めるなどの工夫が大切である。

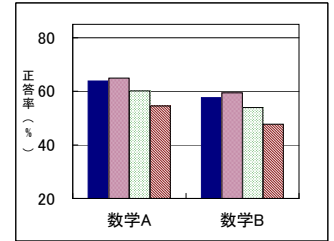
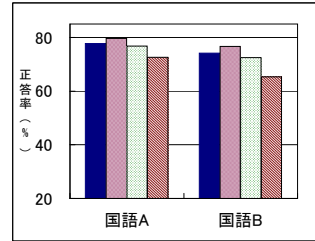
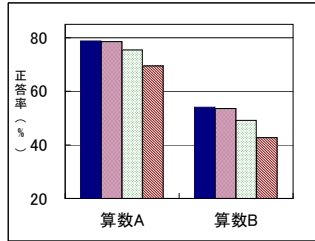
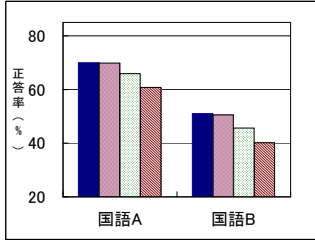


(2) 自尊感情・規範意識

【小学校】

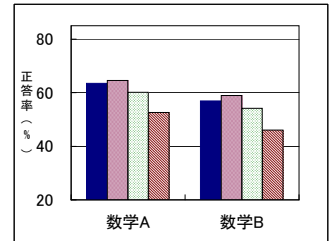
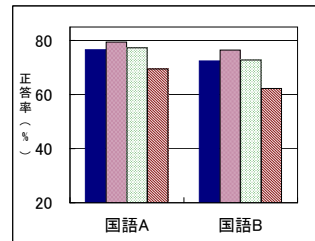
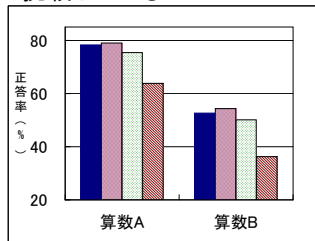
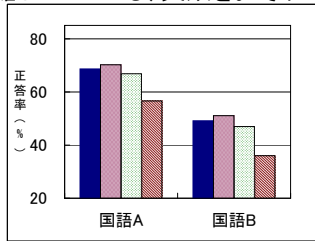
【中学校】

◆自分には、よいところがあると思いますか



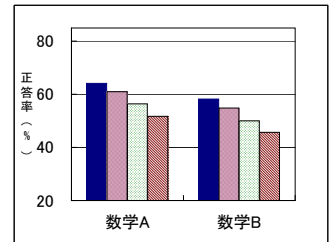
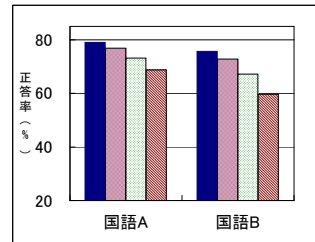
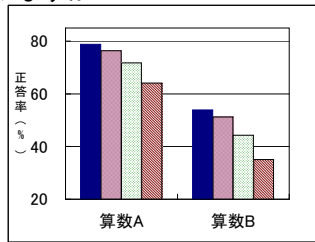
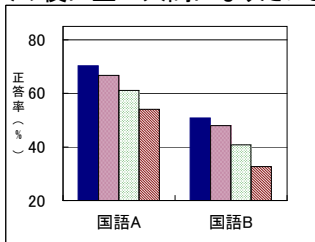
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない

◆難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している



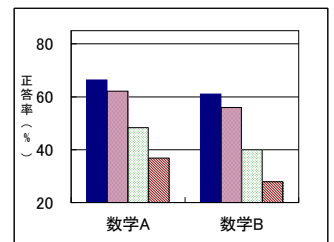
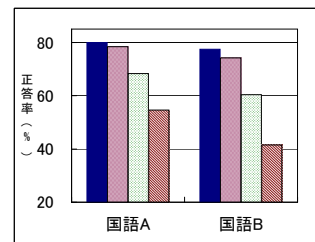
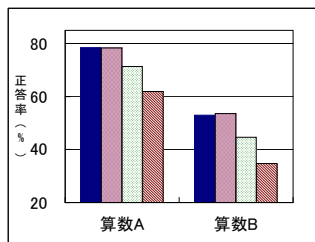
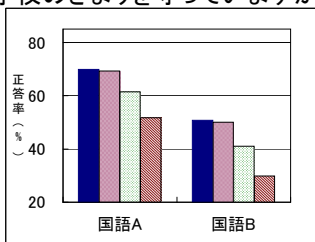
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

◆人の役に立つ人間になりたいと思いますか



■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う □ どちらかといえば、そう思わない □ そう思わない

◆学校のきまりを守っていますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

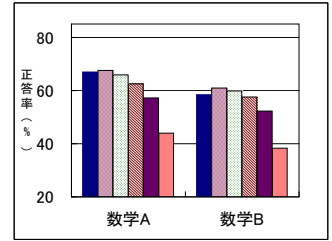
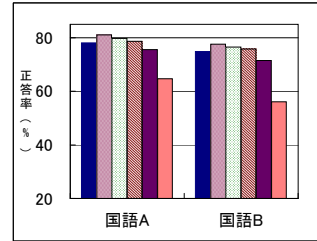
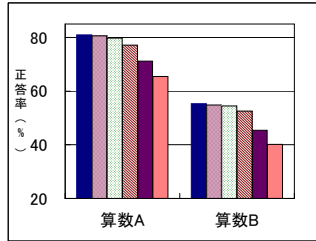
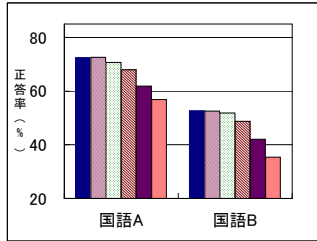
○「自分には、よいところがあると思う」「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」「人の役に立つ人間になりたいと思う」子どもの方が、正答率が高い傾向が見られる。勉強だけでなく、子どもにとって難しいと思えることに挑戦させ、努力の過程をほめることや、自分の好きなことや得意なことで人の役に立つことを実感させる場を学校や家庭・地域に設けることなどを通して、自分にはよいところがあると思えるようにさせることが大切である。  
○「学校のきまりを守っている」子どもの正答率が高く、学校や家庭でも日頃から約束やきまりの大切さや、それを守ることのすばらしさを実感させることが大切である。

(3) 学習習慣の確立

【小学校】

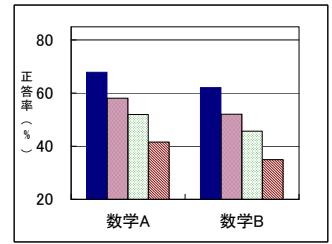
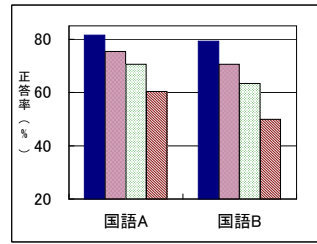
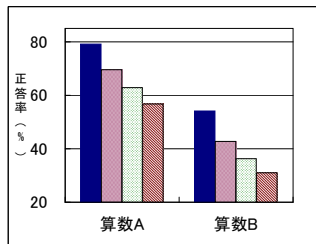
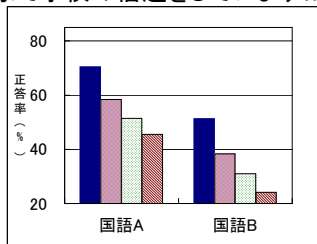
【中学校】

◆学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



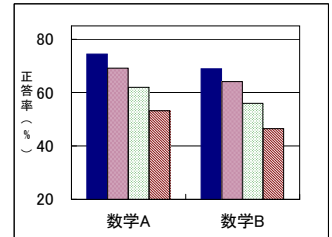
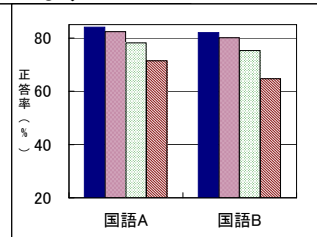
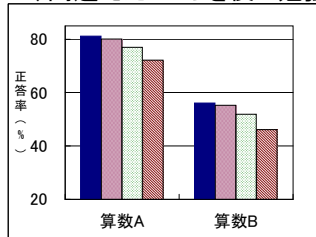
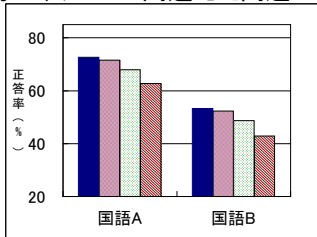
■3時間以上 ■2時間～3時間 □1時間～2時間 ■30分～1時間 ■30分より少ない ■全くしない

◆家で学校の宿題をしていますか



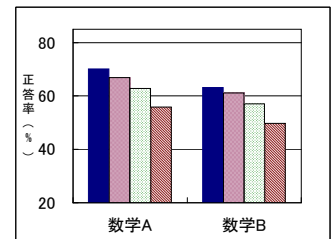
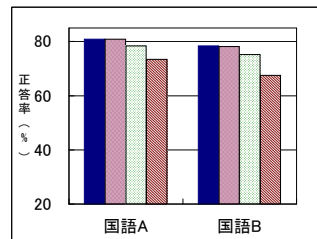
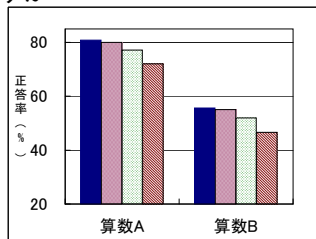
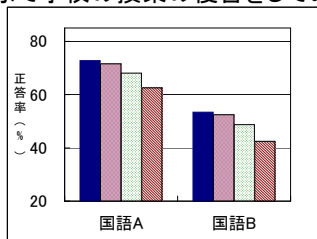
■している ■どちらかといえば、している □あまりしていない ■全くしていない

◆家で、テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか



■している ■どちらかといえば、している □あまりしていない ■全くしていない

◆家で学校の授業の復習をしていますか



■している ■どちらかといえば、している □あまりしていない ■全くしていない

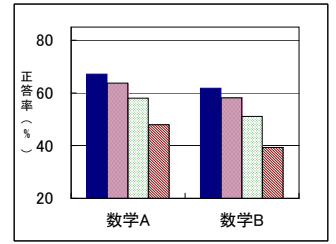
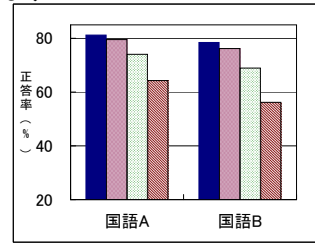
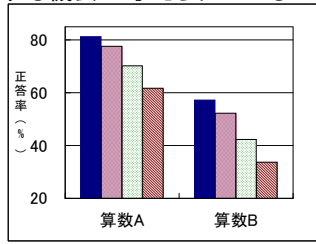
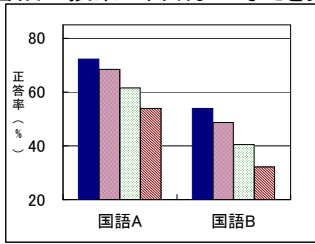
○「家庭学習の時間」が長い子どもや、「家で学校の宿題をしている」子どもの方が正答率が高い傾向が見られる。学年に応じて、学校で出された宿題を活用して、一定の勉強時間を毎日継続して確保することが大切である。  
 ○「家で、テストで間違えたところを後で勉強する」「家で学校の授業の復習をする」子どもの正答率が高く、宿題以外の自主的な学習に取り組むことが大切である。

(4) 学校での学習方法

【小学校】

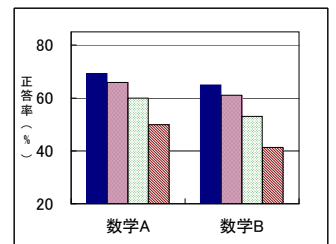
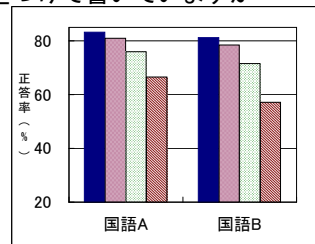
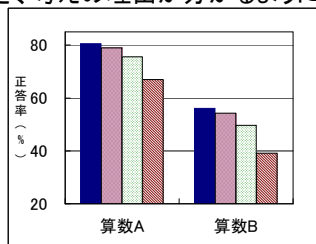
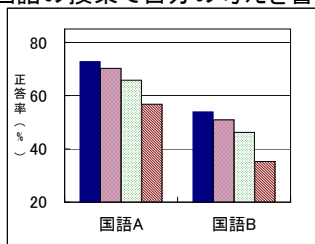
【中学校】

◆ 普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



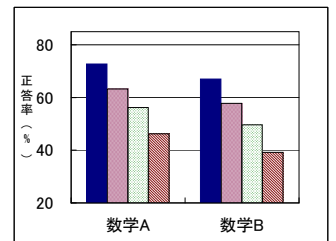
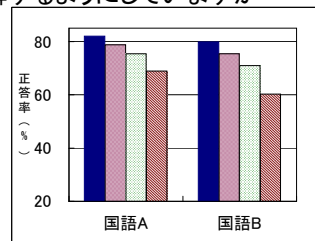
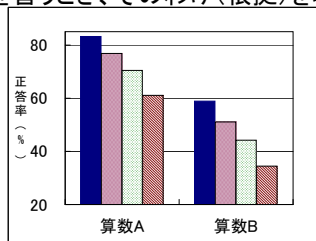
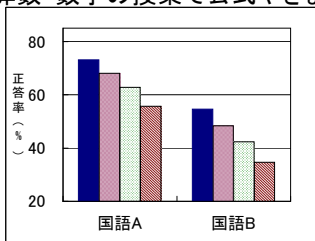
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

◆ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか



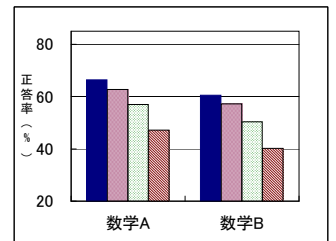
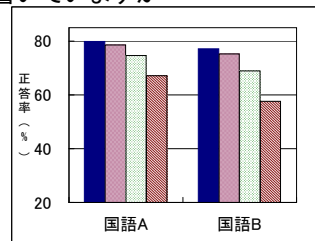
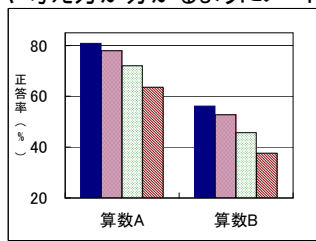
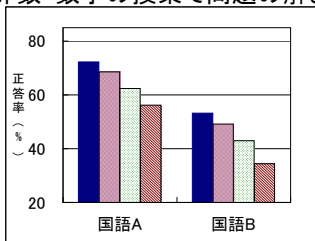
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

◆ 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

◆ 算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

○「普段の授業で、自分の考えを発表する機会が与えられている」と思う子どもほど正答率が高い傾向が見られる。教師の説明や、教師と一部の子どもとの一問一答ばかりでなく、子ども同士の学び合いなど、多くの子どもが活躍できる場面を設けることが大切である。  
○国語の授業で「自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く」、算数・数学の授業で「公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにする」、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」等を行っている子どもほど正答率が高い傾向が見られる。教科の学習方法を理解させ、授業で得た知識等を日常生活で意識して活用させることが大切である。

## 4 学校質問紙と学力調査との相関

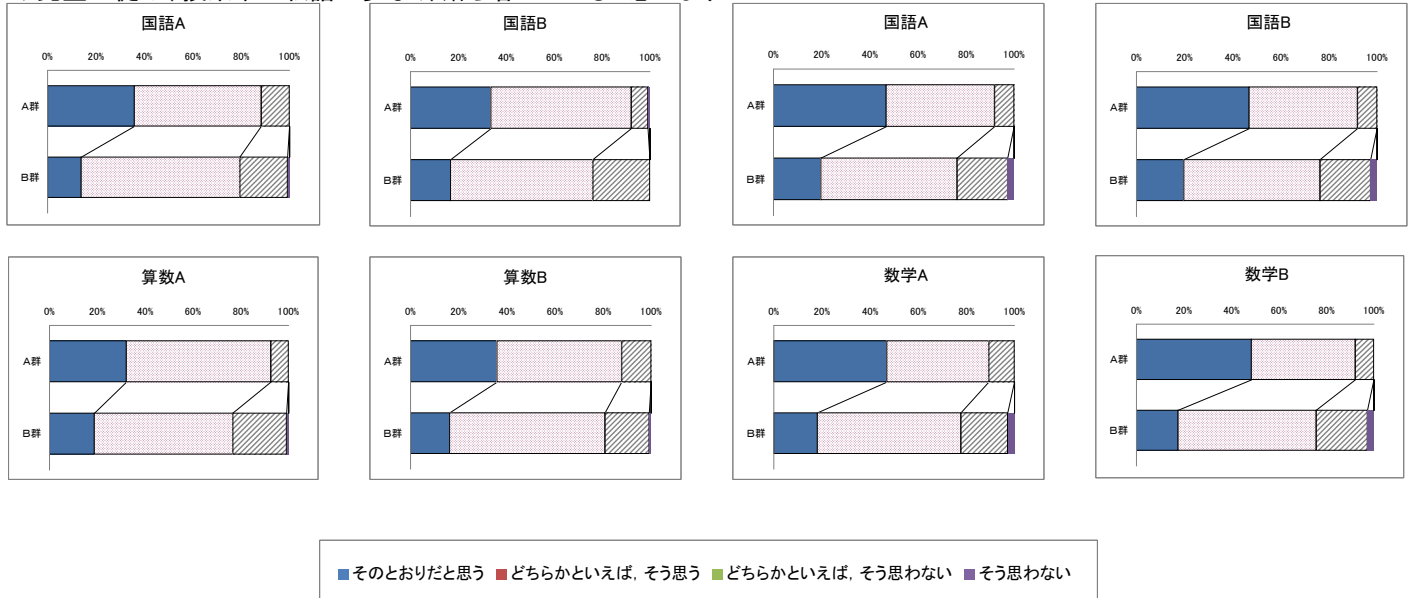
受験者数21名以上の学校において、平成20年度と21年度の学力調査結果を比較して、平均正答率が向上した学校(A群)とそうでない学校(B群)との取組の違いを分析したところ、正答率が向上した学校は、(1)「落ち着いた学習環境」、(2)「学習内容の確実な定着」、(3)「学習内容の工夫と学習方法の指導」、(4)「言語活動の充実」に向けた取組に力を入れていることが明らかとなった。

### (1) 落ち着いた学習環境

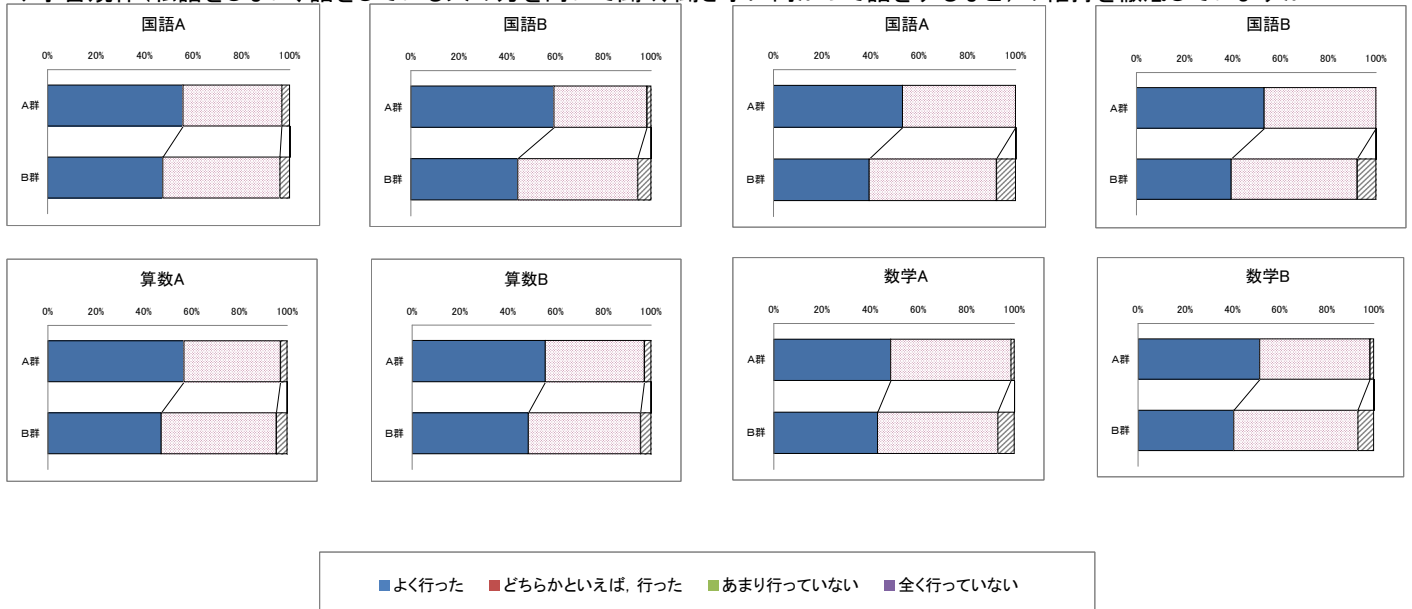
【小学校】

【中学校】

◆児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



◆学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底していますか



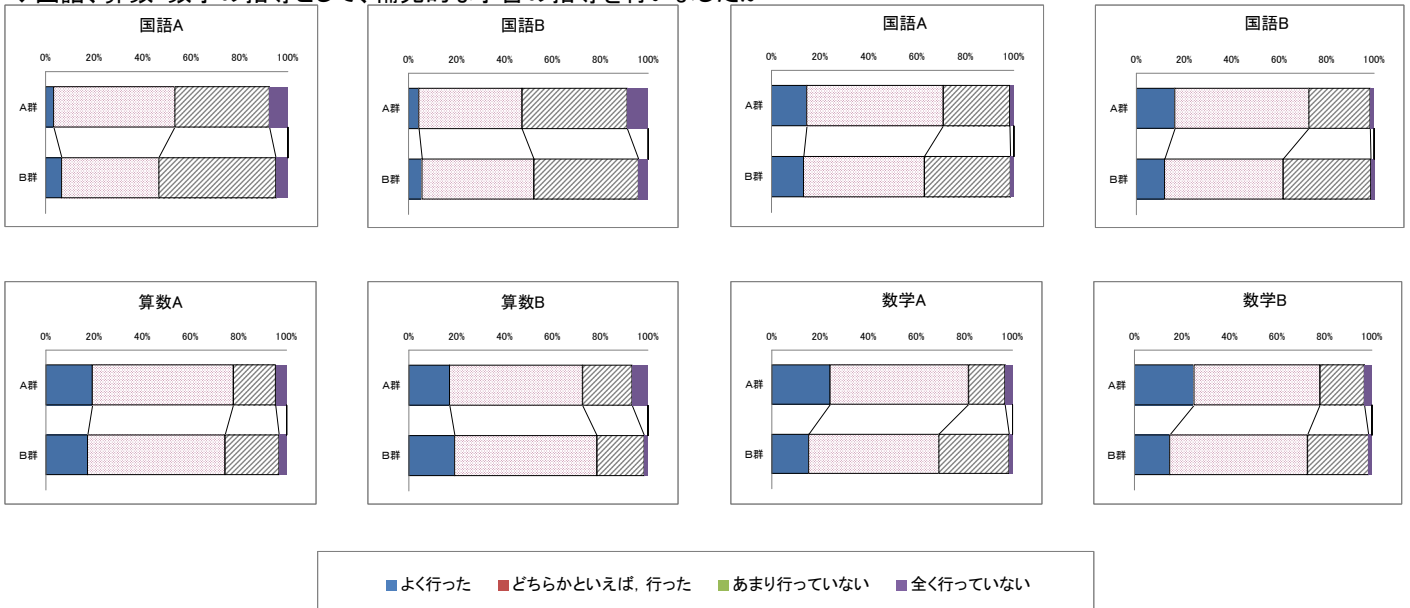
○平均正答率が向上した学校の方が、「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合が高く、「学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をするなど)の維持の徹底」を図っている割合が高い。  
校内で学習規律の徹底に向け、学年に応じた目標設定や手立ての共通理解を図り、落ち着いた環境づくりに組織的に取り組むことが大切である。

(2) 学習内容の確実な定着

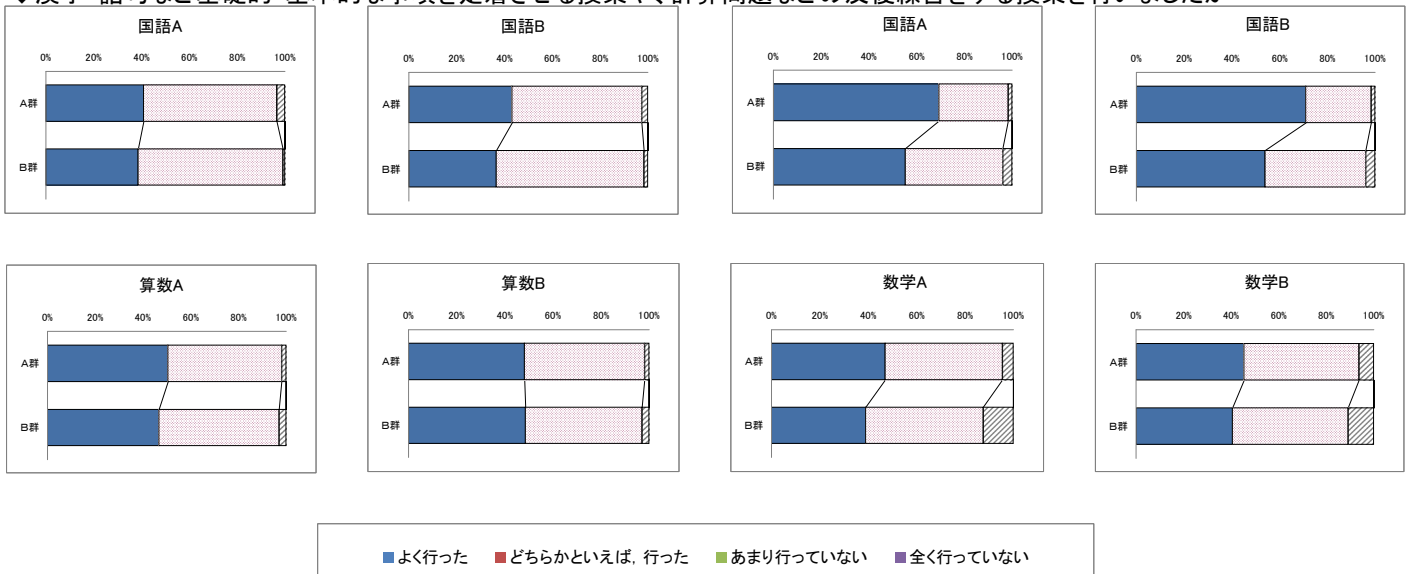
【小学校】

【中学校】

◆国語、算数・数学の指導として、補充的な学習の指導を行いましたか



◆漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業や、計算問題などの反復練習をする授業を行いましたか



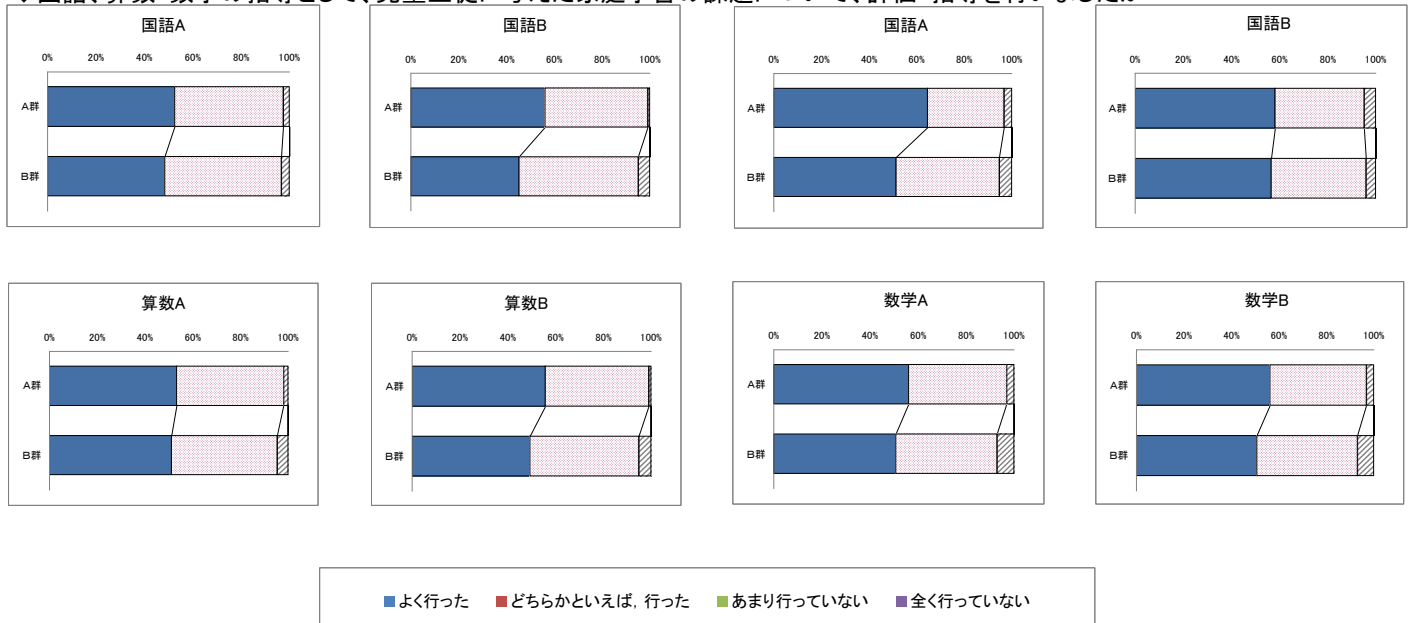
○平均正答率が向上した学校の方が、「国語、算数・数学の指導として、補充的な学習の指導」や「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業や、計算問題などの反復練習をする授業」を実施している割合が高い。  
授業の中で基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図った上で、思いや考え、解き方を説明するなど知識・技能を活用させることが大切である。

### (3) 家庭学習の工夫と学習方法の指導

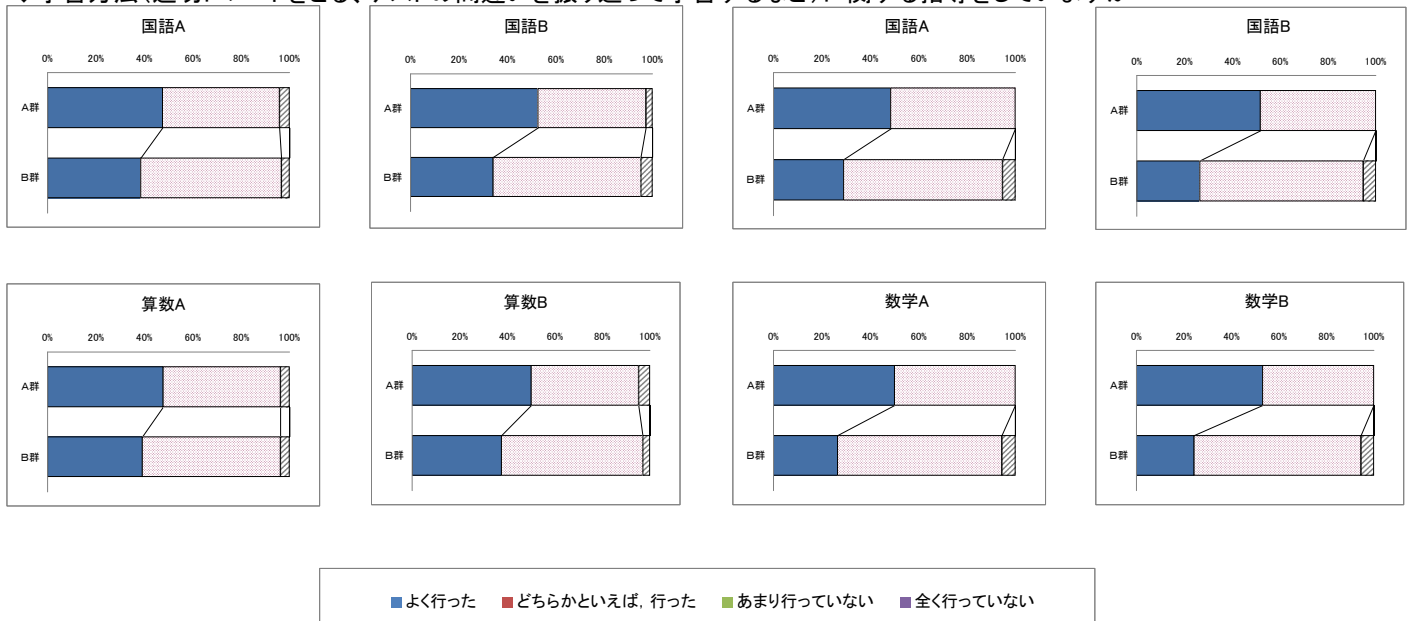
【小学校】

【中学校】

◆国語、算数・数学の指導として、児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導を行いましたか



◆学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導をしていますか



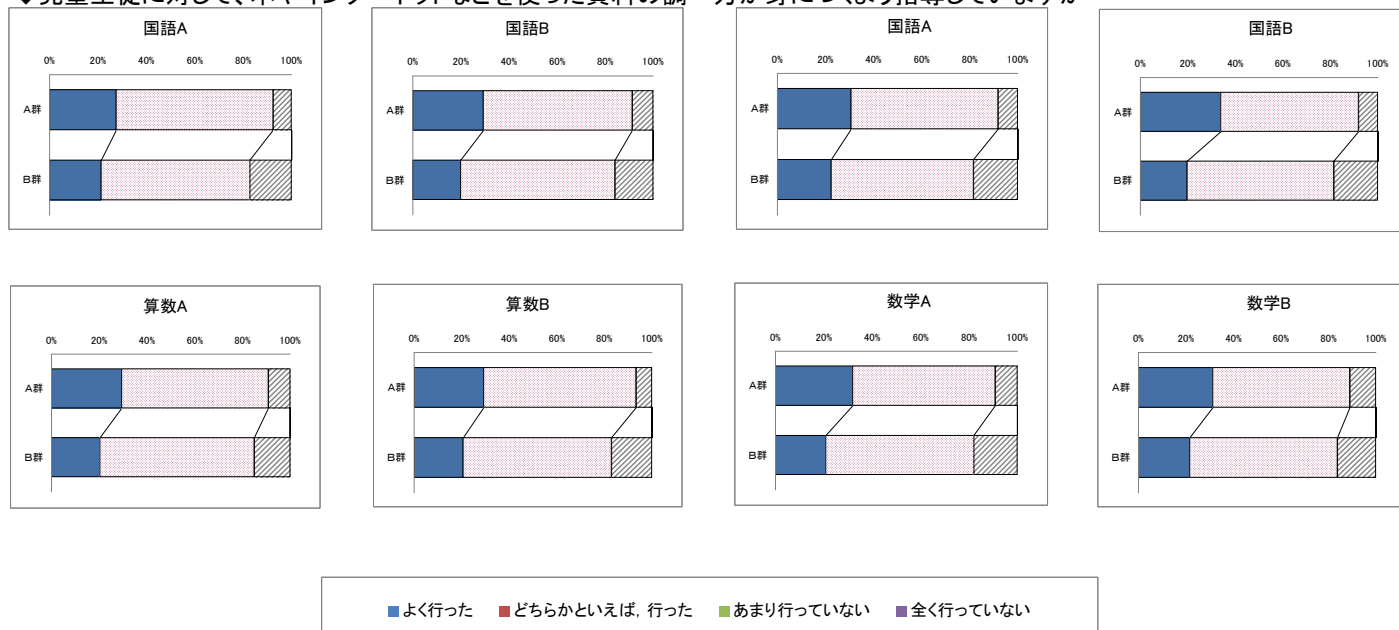
○平均正答率が向上した学校の方が、「児童生徒に与えた家庭学習の課題への評価・指導」や「学習方法(適切にノートをとる、テストの間違いを振り返って学習するなど)に関する指導」を実施している割合が高い。  
 校内で学年に応じた家庭学習の内容や方法の在り方について共通理解を図るとともに、提出された課題を丁寧に評価したり、授業の中で与えた課題を活用した学習活動を展開することが大切である。

#### (4) 言語活動の充実

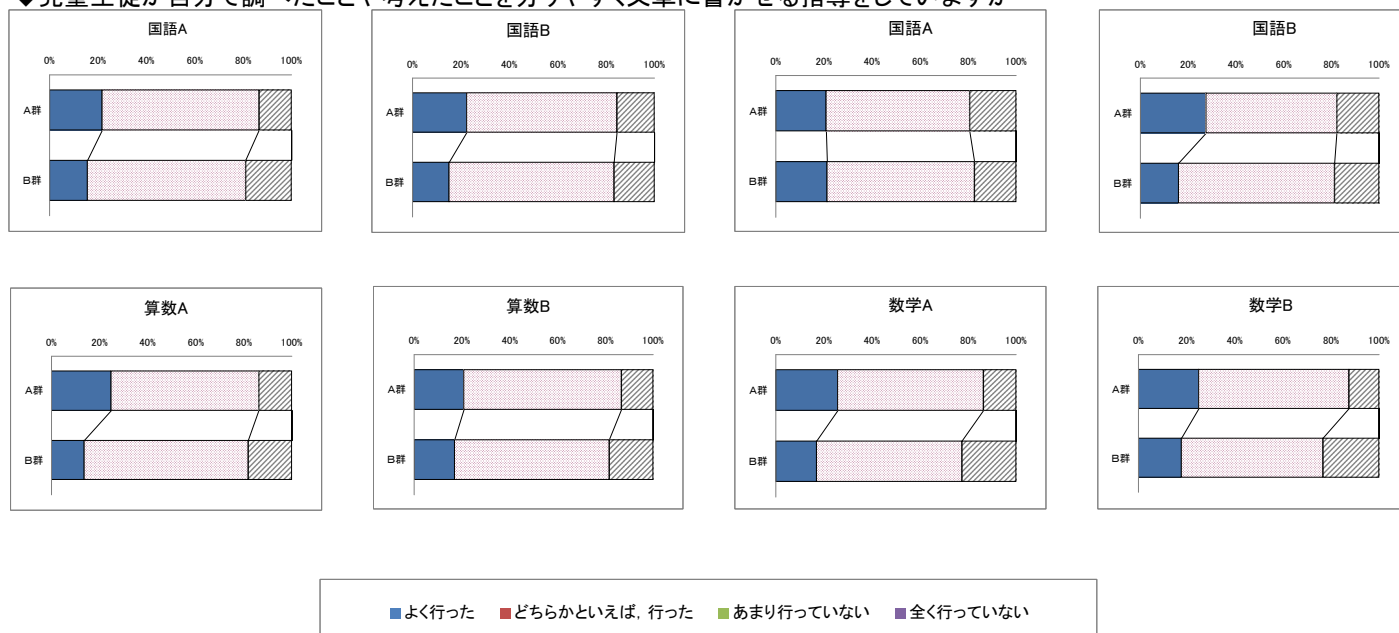
【小学校】

【中学校】

◆児童生徒に対して、本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につくよう指導していますか



◆児童生徒が自分で調べたことや考えたことを分りやすく文章に書かせる指導をしていますか



○平均正答率が向上した学校の方が、児童生徒に対して、「本やインターネットなどを使った資料の調べ方が身につく指導」や「自分で調べたことや考えたことを分りやすく文章に書かせる指導」を実施している割合が高い。

様々な資料やメディアを使った探究的な学習を行う際に、まとめ方などを指導したり、探究したことを書き写すだけでなく、分かりやすく文章に書かせたりするなど、言語活動の充実に向けた具体的な指導が大切である。

## 5 無解答の状況

### (1) 全設問において全国平均に比べて無解答率が高い設問の割合

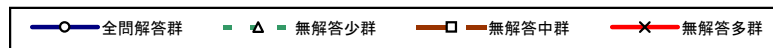
(全国平均より無解答率が高かった設問数/全設問数)

	小学校						中学校					
	国語A	国語B	算数A	算数B	合計	比率	国語A	国語B	数学A	数学B	合計	比率
H20	14/18	11/12	14/19	13/13	52/62	83.9	32/34	10/10	35/36	14/15	91/95	95.8
H21	10/18	10/10	13/18	14/14	47/60	78.3	18/33	11/11	29/33	14/15	72/92	78.3

○平成20年度は、ほとんどの設問で全国に比べて無解答率が高い傾向が見られたが、平成21年度は、改善の傾向が見られる。

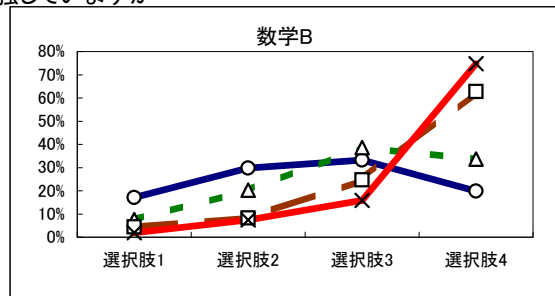
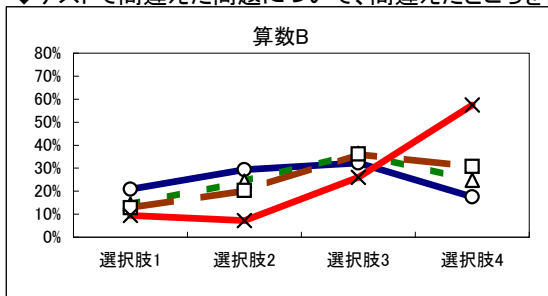
### (2) 児童生徒質問紙との相関

	全問解答群	無解答少群	無解答中群	無解答多群
算数B	無解答0問(14問解答)	無解答1～4問	無解答5～9問	無解答10～14問
数学B	無解答0問(15問解答)	無解答1～5問	無解答6～10問	無解答11～15問

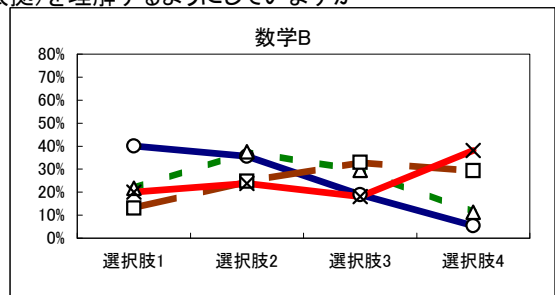
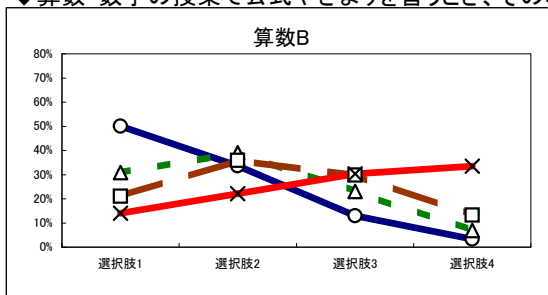


[横軸: 児童生徒質問紙の選択肢, 縦軸: 選択肢を回答した児童生徒の割合]

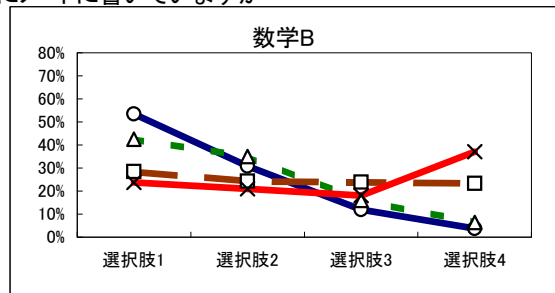
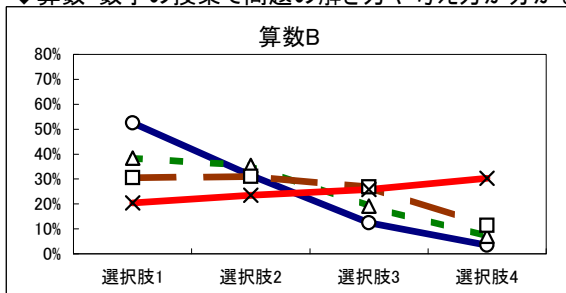
#### ◆テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強していますか



#### ◆算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか



#### ◆算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



選択肢1	している	選択肢2	どちらかといえばしている	選択肢3	あまりしていない	選択肢4	全くしていない
------	------	------	--------------	------	----------	------	---------

○無解答率が高い児童生徒ほど、テストで間違えた問題を後で勉強するなどの自主的な学習の意欲が十分ではなく、算数・数学で公式を習う際、そのわけを理解するようにしていなかったり、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書けていない傾向が見られる。



## 6 習熟度別指導との相関

### (1) 習熟度別指導実施校と未実施校との比較

学校質問紙から、受験者数21名以上の学校において、習熟度別指導を実施している学校と未実施の学校とで平均正答率を比較した。

◆前年度の算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか。

小学校	学校数	算数A	算数B
実施	109校	77.7%	52.0%
未実施	133校	77.5%	52.7%
岡山県	242校	77.6%	52.4%

中学校	学校数	数学A	数学B
実施	46校	62.6%	56.5%
未実施	94校	62.6%	56.6%
岡山県	140校	62.6%	56.6%

◆前年度の算数・数学の指導として、習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか。

小学校	学校数	算数A	算数B
実施	109校	77.8%	52.1%
未実施	133校	77.4%	52.6%
岡山県	242校	77.6%	52.4%

中学校	学校数	数学A	数学B
実施	46校	62.9%	56.9%
未実施	94校	62.5%	56.5%
岡山県	140校	62.6%	56.6%

○習熟度別指導を実施している学校の方が、未実施校より平均正答率が高い傾向が見られる。より教育効果を上げるためには、学習集団に応じた教材の開発や指導法の工夫が大切である。

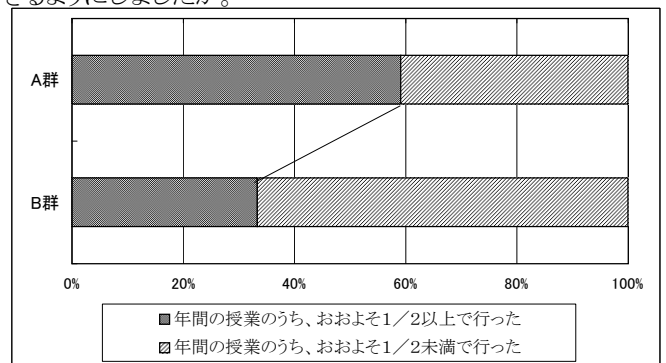
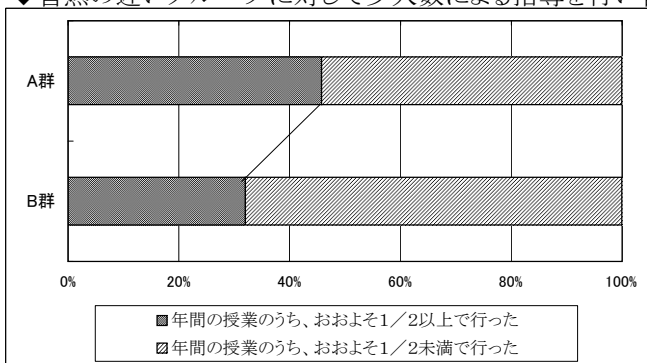
### (2) 習熟度別指導実施校における状況

受験者数21名以上で習熟度別指導を実施している学校において、平均正答率の上位・下位それぞれ50%の集団をA群・B群とし、前年度の算数・数学の授業における「習熟の遅いグループに対する少人数指導」「習熟の早いグループに対する少人数指導」の実施割合を比較した。

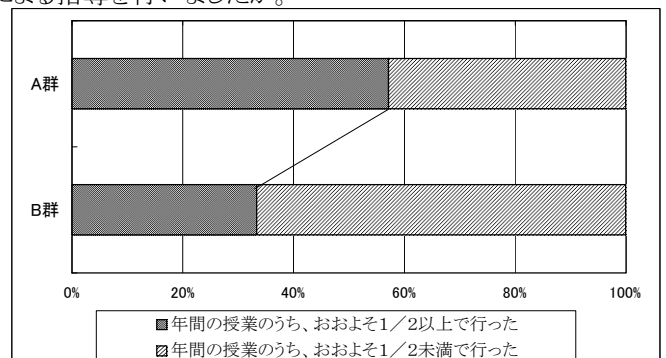
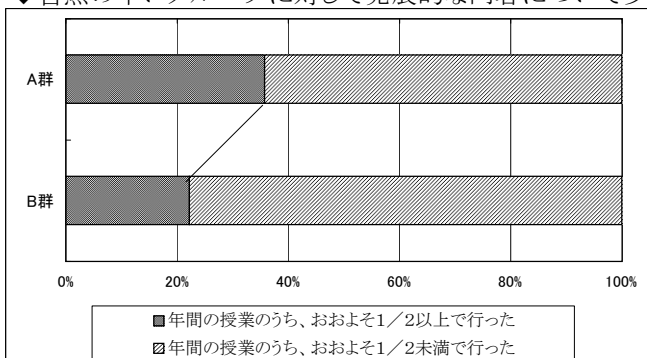
#### 〈小学校・算数〉 109校

#### 〈中学校・数学〉 46校

◆習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い習得できるようにしましたか。



◆習熟の早いグループに対して発展的な内容について少人数による指導を行いましたか。



○平均正答率が高い学校の方が、年間を通して多くの時間で習熟度別指導を行っている傾向が見られる。

### Ⅲ 学力向上の取組

#### 1 これまでの取組

##### (1) 岡山県学力向上アクションプラン

###### ○学力向上検討委員会

- ・ 小学校から高等学校までを見通した学力向上の方向性の検討
- ・ 岡山県学力向上アクションプランの検証・改善

###### ○授業改革支援事業

- ・ 授業改革協力員による校内研修の充実
- ・ 10中学校区の学力向上実践校による実践研究の推進
- ・ 各学校で実施する授業改革研究会の支援（指導主事の派遣）
- ・ 算数・数学アドバイザーの派遣
- ・ 学校力向上支援スタッフの派遣
- ・ 素材集の作成（Webページに掲載）

###### ○学習到達度確認テスト（小学校1年～中学校3年対象）

- ・ 算数・数学の単元別及び年度末テストの作成
- ・ 読解力テストの作成

###### ○学力向上推進資料（「学習の手引き」「授業改革の提案」）の充実

##### (2) 全国学力・学習状況調査結果の活用（学校・市町村教育委員会に対する支援）

###### ○分析ツール（レーダーチャート作成ツール、学力と質問紙の相関ツール）の活用

###### ○児童生徒用個人シート（レーダーチャート・自己評価シート等）の活用

###### ○学力・学習状況改善プランの活用

#### 2 今後の取組

###### ○学力向上実践校等の授業公開による成果の普及

###### ○授業改革協力員の先進県への派遣、地域への研修内容の還元

###### ○学力向上推進資料（「習熟度別指導実践事例集」等）の充実

###### ○学力向上フォーラム「学ぶ力の育て方を考える」の開催（10/25）

###### ○学力向上フォーラム「PISA型学力を育てるために」の開催（11/28）